

令和3年3月26日

保護者各位

桜山保育園

## 令和2年度 保育所評価について

日頃より桜山保育園の運営にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。  
令和2年度の保育についてまとめましたのでご報告いたします。

### 【保育所評価】

皆様からのアンケート結果と保育士の自己評価を受け、実際の保育の中で園長の責務として、下記の点をしっかりと確認していくことで保育所評価とさせていただきます。

- ① 一人ひとりの子どもの気持ちや状態に寄り添いながら適切な援助をする。
- ② 園と保護者が、共に子どもの育ちを支えていける信頼関係を築いていく。
- ③ いろいろな経験を通して豊かな感性や表現力を育む。

以上の事は、令和3年度の会議や園内研修の中で、職員と再確認していきます。  
下記の保育士の保育観、反省点等をもちまして、保育所評価の公表とさせていただきます。

### 【令和2年度 保育士自己評価】

保育の質の向上のため、各保育士が自己の保育を振り返り、下記の通り自己評価をしました。

1. 子どもの最善の利益を考慮する（声かけ、言葉遣いなどを含む）
  - ・子ども達の気持ちに寄り添った言葉かけを心がけ実践した。
  - ・時に大きな声、厳しい言葉となってしまったこともあるが、その都度意識し、気をつけることを心がけた。
  - ・個々の成長に合わせて配慮の仕方を工夫していった。
  - ・子どもの手本となるような言葉遣いを心がけた。
  - ・子どもに対する話し方、伝え方は、言葉を選んで保育することを心がけた。
  - ・子どもの気持ちを受け止めながら保育を行った。
  - ・子どもの思いに寄り添いながら行った。
  - ・状況に応じた丁寧な関わりを心がけていった。

- ・子どもや保護者の見本になるような言葉遣いを心がけた。
- ・子どもの気持ちを尊重しつつ、一つ一つ活動が変わる際などに声をかけることができた。
- ・子ども達の気持ちを受け止め、毎日安心して過ごしていけるよう努めた。
- ・丁寧な言葉遣いを心がけた保育を行うようにした。
- ・子ども達自身が自ら考えられる力を身につけるよう声かけをしていきました。
- ・子ども達が気持ち良く、楽しく過ごせるように関わり、言葉かけも丁寧な言葉遣いで行うようにした。
- ・子どもの思いを汲み、丁寧な言葉かけを心がけた。
- ・信頼関係を築くことができた。
- ・気分が乗らなかつたりしている子どもに対して無理に参加させるのではなく、自分のペースでやりたくなったらできるよう声をかけていった。
- ・なるべく自分の言葉で伝えられるよう援助しながら言葉かけを行った。
- ・少しでも頑張れるような声かけをするよう心がけた。
- ・目線の高さに気をつけて話をするようにした。

## 2. 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場を提供する

- ・安心して過ごせるように園の整備に努めた。
- ・楽しめる遊びを考え、安心して過ごせるようにしてきた。
- ・今年度は、コロナの影響もあり、活動や食事で密にならないよう、感染しないよう対策を行い保育した。
- ・子どもたちにも感染予防の大切さを伝えながら意識づけをできるようにした。
- ・子どもの気持ちをできる限り受け止め、安心して楽しく過ごせるよう配慮し、工夫をした。
- ・子どもたちが、家庭で過ごしているかのように落ち着いて食事、睡眠、活動の時間を取れるように配慮した。
- ・コロナウイルスもあり、より安全に過ごせるよう、協力して消毒を行うよう心がけた。
- ・子どもの過ごしやすい環境、安全に活動ができるよう危険を予想しながら整えていった。
- ・家庭との連携を密にとっていきながら、子どもたちが安心して過ごせるような環境や関わりを心がけた。
- ・子どもたちが安心して安全に過ごせるような保育環境をつくっていくことができた。
- ・自分だけではできないことなので、他者と協力し、安心して過ごせる環境づくりに努めた。
- ・安心して、生活できる場になるよう意識した。

- ・毎日楽しく過ごせるよう心がけながらも、一人ひとりに合わせた援助（身の回りのことができるようになるよう）した。
- ・あたたかく毎朝受け入れた。
- ・コロナ禍の中、子どもたちが健康、安全に快適に過ごせるよう保育室内、活動等様々な面で工夫し、配慮を行った。
- ・保育室内の環境を整え、自分の好きな玩具を選んで遊べるようにしていった。
- ・厳しい状況の中、安心、安全、清潔等気をつけながら保育を行った。
- ・コロナ禍の中でもできるだけ子どもたちの成長に合わせより良い生活ができるよう環境を整えた。

### 3. 発達過程に応じた保育・個人差への配慮をする

- ・個々の状況に合わせて声がけや介助を行った。
- ・難しさを感じたが、全体を見つつ、個々の対応を意識し行っていった。
- ・一人ひとりの成長を把握し、その子どもに合わせて援助をしていくことで、できた喜びが感じられるようにしていった。
- ・基本的な生活習慣等、個人差がある為、個々に対応し、保護者と相談しながら子どもにとって最善の保育を行うよう努力した。
- ・本で勉強をしたり、クラス内で話し合った。
- ・月齢の差が大きな学年なので、一人ひとりに合わせた配慮を心がけた。
- ・無理強いせず、子どものやる気や思いを尊重していった。
- ・初めて受け持つ年齢だったので、専門書を見たり、先輩保育士に助言をもらい、発達段階を学んだが、個別でゆっくりと伝えることができなかつた部分もあるので反省した。
- ・場面によって、援助をしたり、補えるようにしていった。
- ・自信がもてるように「自分でできる」経験も増やしていった。
- ・子どもの心と身体の発達を一人ひとり理解し、その子に合った遊び、食事などを心がけて丁寧に関わっていった。
- ・子どもたち一人ひとりのペースで進めるよう待つ時間を作るようにして、援助をしていった。
- ・担任同士で話し合い、接し方や援助等を行い、配慮をしていった。
- ・月齢に応じた食事や遊び場、玩具を提供し、安全に園生活を送れるようにしつつ、発達を促進する活動を取り入れた。
- ・声かけなどをする際、個人に合った対応を心がけた。
- ・製作が苦手だったりする子もいたので、自分ができる範囲で行えるよう進めていった。
- ・食事の面でも食べられる量を子どもと話し、意欲が持てるようにしていった。

- ・配慮しつつも、ついみんなと一緒に考えてしまうことがあった。
- ・食物アレルギーの子どもへの対応や発達段階に応じた食事を提供することができた。

#### 4. 養護と教育が一体となった保育を展開する

- ・季節の食材を使用し、子どもたちと一緒に楽しくクッキングができた。また、行事の由来などを伝えることができた。
- ・子どもたちが、安心して過ごせるよう配慮しながらもいろいろなことに感じたり、気づいたりでき、楽しく過ごせるような環境づくりを行うようにした。
- ・今年度は、特に生活面だけでなく活動面でも意識しながら行うことが多かった。
- ・一人ひとりと関わりながら友だちと関わることの楽しさが感じられるように仲立ちをしていった。
- ・甘えや欲求を受け止め、家庭的な保育を心がけながら自立や心情、意欲等の向上にも目を向け、言葉かけや援助を行えた。
- ・四季を意識した保育
- ・愛情深く関わる中で、甘えや自我を受け止めながら安心して過ごせる（人と関われる）よう配慮した。
- ・就学に向け、自分でできることを確立するよう指導した。
- ・心落ち着く環境を作りながら、子ども自身が、自分で感じたり、気づくような遊びや活動を行った。
- ・普段の生活の中で、時計の数字を意識できるようにしていった。
- ・子どもとの関わりを大切にしていきながら愛着関係が持てるよう努め、日々の生活の中では、興味、関心が持てるような環境（玩具・絵本）を整えていった。
- ・子どもの気持ちを受け止めつつ、正しい方へと向けるよう導くための努力をしていた。
- ・行事や遊びの中で、ルールを可視化し、異年齢との交流を取り入れた。
- ・子どもたちが日々の生活の中で、絵本から言葉を学んだり食事から食材を知ったり等、学びの機会もつくった。
- ・個人の発達に合わせ、自分でできることを共に見つけ、手助けをしながらできたという達成感を感じられるよう配慮した。
- ・年長児として突発的に行動するのではなく、頭で考えて判断して動けるよう伝えて保育を行っていった。
- ・養護と教育が一体となった保育を展開することの難しさを感じた。

#### 5. 人的環境・物的環境・空間・自然や社会事象等工夫する

- ・子どもたちが自分たちで選んで玩具等遊べるように環境を整えていった。その都度、使った物を片付け、綺麗な場で生活することも声をかけ工夫した。
- ・室内の換気を心がけ、こまめに消毒を行い過ごしやすい保育室づくりを行った。

- ・子どもたちの想いを受け止め、玩具、戸外遊び、水遊び等、様々な環境を通して経験を広げる場を提供した。
- ・例年通りの行事は行えなかったがクラスごとに行事を行うことにより、より詳しく細やかに伝えることができた。
- ・今年度は、コロナ禍でいろいろな経験をさせてあげることが難しかったがその中で何ができるかを考え工夫していった。
- ・子どもたちの手先の発達に応じて、その年齢に合った手作りの玩具を作ってみる工夫を行った。もう少し、戸外へ出る機会を持てたらと思う。
- ・季節や行事を感じられるよう室内用に製作をしたり、戸外遊びをすることができた。
- ・コーナー遊びを多く取り入れた。園外へも多く行き長距離散歩を通し、体力作りを行うことができた。
- ・感染症予防を意識しながら、可能な範囲で活動を工夫して行った。
- ・コロナ禍、自粛中は散歩も自粛となってしまい残念に思った。広い園庭を活かし、木々や畑を観察するなどして、自然に興味を持てるよう関わった。
- ・五感で、自然を感じられるよう工夫した。
- ・保育内容を適時変更したりしながらできないと思うのではなく、どのようにすれば子どもたちに発達成長に合った保育を行えるのか常に考え、悩みながら保育を行った。
- ・貼ったり、描いたりする楽しさを味わえるよう工夫していった。散歩に出かけることがあまりできず残念であった。
- ・より良い環境を整えること、工夫すること、考えることが多かった。その中でもやはり人的環境もとても大事だと思った。
- ・子どもたちが安全に過ごせるように園庭内などの玩具の点検や補修を行った。
- ・誕生会では、おやつに旗を立てたり、行事食では、子どもたちが見て喜ぶ、美味しい食事を提供することができた。

## 6. 保護者・家庭との緊密な連携を持ち支援する

- ・食物アレルギーのある子どもの保護者とアレルギー面談を行った。
- ・保護者からの言葉かけには真摯に対応した。
- ・信頼関係がある中でも丁寧に、相手の気持ちを考えて接することの難しさを感じた。
- ・送迎時に保護者と家庭での様子、園での様子を伝え合ったりしてコミュニケーションをとっていった。
- ・家庭と共に子どもを育て合えるよう、必要に応じて子どものありのままの姿を伝えたり、相談にのる等できた。
- ・気持ち良く保護者の方が仕事をできるようにサポートしたいと思った。
- ・様子は毎日、連絡ノートや送迎時に伝えてはいたが、今年は懇談会がなく、カリキ

- ・チャムや保育内容については、十分に伝えられてなかった。
- ・意見や要望に耳を傾け、可能な限り応えていったつもりである。
- ・信頼関係を築いた上での関わりをし、子育ての悩み不安を聞き、共に考え、同じ方向を向いて成長を支えていけるような関わり方などの提案をした。
- ・連絡帳に加え、クラスのボードや送迎時に子どもの様子をこまめに伝えることができた。
- ・登降園の際に、日々の様子を詳しく伝えるようにし、保護者の方々から気になることがあれば、丁寧に話を聞き、コミュニケーションを大切にしていた。
- ・保護者から相談等話してもらえるような雰囲気づくりに努めていった。
- ・成長や発達を共有できるよう連絡を取り合うようにした。
- ・保護者の話をよく聞き、気持ちを受け止めた上で、子どもの最善の利益のために協力いただけるよう話をした。
- ・体調の変化や生活の中での様子を密に伝え合うようにした。
- ・保護者の話をよく聞き、寄り添えるよう心がけていった。また、不明な点があることがあったため、その時は、他の保育士に聞いてから正確に伝えられるようにした。
- ・的確な連携を持てるように考えながら行動をした。

## 7. 資質向上を考え研修を受ける

- ・保育エキスパート等研修にてマネジメント研修に参加した。
- ・リモート研修で、4・5歳児について研修を受け、園で実践できることはないか考えた。
- ・1歳児の発達や保護者対応などの研修をZOOMにて受講した。
- ・乳児保育の研修を通して、日々の保育の振り返りをし、子どもたちの主体性を大切にするよう心がけた。
- ・園内研修もあり、新しい発見や取り組みができた。
- ・研修で学んだことを保育に活かせるよう工夫していった。
- ・アレルギーについての専門的知識を学ぶ機会をもてた。
- ・自分の仕事をする上での立場を考え、研修内容をどのように活かせるかを考えることができた。
- ・保健・安全についての研修を受講し、感染症や様々な疾患について知識を得ることができた。
- ・園内研修において、感染症予防についての知識を深めた。
- ・保育エキスパート等研修で乳児保育を受講した。
- ・保健衛生・安全対策の研修を受けることができた。
- ・研修に行く機会が少なく残念であったが、園内研修で意見を出し合い、確認し合うことで、知識を深めることができた。

- ・なかなか受けることはできなかった。自己での勉強も足りなかったと感じる。
- ・今年度は、研修に行けていない。
- ・自己研修により様々な支援について学んだ。

以上

令和2年度のアンケートへのご協力 ありがとうございます。  
たくさんの感謝のお言葉やあたたかいお言葉をいただき、職員一同、とても励みになりました。また、厳しいご意見もあり、真摯に受け止め、改善すべきところは、対応していき、より良い桜山保育園になるよう努力していきたいと思えます。  
今後とも どうぞよろしくお願いいたします。